

至 徳

射水市立金山小学校 学校だより



令和4年9月26日

第9号

マツタケをいただきました

9日（金）に、里山の会の方が校区で採れたマツタケを持ってきてくださいました。

話によると、マツタケが育つためには、下草を刈ったり、枝打ちをしたりして、日が当たるようにすることが大事で、ため池があることやコナラの木が生えていることも、よい条件となるそうです。しかも、学校へ持って行くために、連日朝から山へ出かけ、見守ってくださっていたそうです。このような適した環境の中、大切に育ててくださったマツタケは、とても大きく立派でした。

いただいたマツタケを廊下に展示しました。すると子供たちは「大きい」「匂いする」と興味深く見ていました。里山の会の方の「地元の山の恵みを知ってもらいたい」との思いを、しっかりとくみ取っているようでした。

新聞記事によると、「かつてマツタケの産地だったが、里山の荒廃が進み約30年前から採れなくなった。里山の会が間伐や下草刈りに励み、約6年前から育つようになった」とのこと。自然に育つことがあれば、逆に手を加えないと壊れていくのも自然の有りようです。地元の食材を食べることからも、子供たちの意識を「里山を守って行かなくてはいけないんだな」とする思いにつなげていきたいものです。



みどりの奨励賞を受賞しました

この度、本校の「花や緑を愛し、守り育てる活動」が評価され、全国緑の少年団連盟より「みどりの奨励賞」を受賞しました。

- ・金山地域の里山を次世代に継承するために、里山の役割等を学び、しいたけの植菌を体験したりするなど、里山を守る活動を展開している。
- ・学校周辺の用水路や河川での水生生物の調査を行い、里山を守ることは海を守ることに繋がること学び、理解を深めている。
- ・学校林に名札を付け、名前や木の特徴を学ぶウォークラリー活動を行い、楽しみながら身近な学校林に親しむ活動として樹木への見識を深めている。

などのことから、地域住民の協力を得ながら、森林学習体験や奉仕活動に努めるなど、地

域社会への貢献度が高く、活動内容も優れているということが、受賞理由とされています。

本来であれば、夏休み中に北海道で行われた授賞式に出席するはずでしたが、コロナ禍であることに加え、諸事情により都合がつかなかったため、21日（水）、とやま緑化推進機構理事長の高木繁雄様を始め、県農林水産部の方、市産業経済部農林水産課の方等、6名が来校してくださり、授賞式が行われました。

表彰を受けて、6年生の平尾さん、野手さんが表彰状と副賞を受け取り、平尾さんが本校で取り組んで来た活動を紹介し、「これからも金山小学校で、花と緑の少年団の活動を進めていきます」と感謝の言葉を述べました。

評価された活動には、「金山だからこそできること」があります。これからも地域のよさを生かして、団の活動目的にある「次代を担う子供たちが花や緑に親しみ、花や緑を愛し、守り育てる活動を通して、ふるさとを愛し、人を愛する心豊かな人間に育つ」ように努めていきます。



避難訓練を行いました

22日（木）、「不審者が侵入した」との設定での避難訓練を行いました。これまでの不審者対応訓練は、「誰がどういう対応をするか」ということをあらかじめ確認して行っていましたが、今回は警察の方より、「不審者が侵入しますので、後は臨機応変に対応してください」とだけ伝えられ行った訓練です。つまり、教職員が不審者の動きに合わせて、しっかりと対応できるのかが問われる訓練でした。

不審者役の警察官の真剣な演技に、教職員も必死に対応しました。まずは、子供たちに危害が及ばないように教室の中に避難させ、実際に110番に電話をしました。現場に駆けつけた教職員は刺股や椅子を使って警察官が到着するまで応戦し、最後は駆けつけた警察官によって不審者の身柄確保となりました。

その後、警察の方より、訓練についての講評として、児童の避難のさせ方、教職員の指示の出し方・受け方、不審者の追い込み方等について指導をしていただきました。

訓練とは言え、各人の動きにはなかなか迫力がありました。実際に不審者が侵入したとなれば、今回とは違う動きをするかもしれないので、かなりの緊迫感があると思われます。「しっかりと施錠や来校者確認等をする」「不審に感じたら入校させない」など、日頃より高い防犯意識をもって取り組んでいきたいと思います。